



【学校教育目標】自ら考え、判断し、人と共により良く生きようとする心豊かな子供の育成

平和祈念集会

1945年8月9日、長崎に原子爆弾が投下されてから80年が経ちました。

小ヶ倉小学校でも、「戦没者への慰霊と平和への願い」の思いをもち続けるための「平和集会」を実施しました。今年も、気温上昇による子供たちの体調面を考慮し、各教室においてリモート形式で実施しました。

集会の、校長講話では、毎年同じような内容ですが、繰り返し伝えることで、子供たちの「平和への思い」を強くしてほしいと願って以下のようなことを伝えました。(部分抜粋)

「戦争の種」「戦争の芽」は、私たちのすぐそこにあります。「いたずら」や「けんか」、「いじめ」「仲間外し」「無視」などが当たります。「意見や考えがあわないこと」「思い通りにならないこと」は、国と国との間でもあるし、誰と誰の間にもあります。大切なことは、相手の立場に立って考えてみることに、話し合っ解決しようとする、相手の心をつかろうとすることです。力で抑え込もうとしたり、自分の言い分だけを通したりすると、自分の中に「戦争の種」「戦争の芽」を生んでしまいます。戦争をよしとする間違った心をもってしまうことにつながります。

そうならないために、私たちにもできることがあります。「自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。」「友達のよいところを見つけること。」「みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。」です。だから、まずは、「自分の隣にいる人を自分が大切にする」ことを頑張りましょう。

たったそれだけのことで、同じことを10人がやったら、100人がやったら、1000人がやったら・・・、平和な世界の実現も夢ではないような気がしてきませんか。

「戦争を始める」と決めるのも人の心です。「戦争は絶対にやらない」と決めるのも人の心です。みんなで「平和を守る強い心」をもちましょう。

「小さな平和」をつくる力が「大きな平和」につながっていくのです。



校長の講話のあとは、平和学習に取り組んだ5年生の学習成果の発表を行いました。また、各学年の取組を見合う学習も行いました。

大切に育てたい「平和の心」

長崎の人なら、大人子供問わず「8月9日」が何の日か知ってほしいものですが、子供や若者、親世代にも答えられない人が増えている今の時代だからこそ、子供たちに平和についてしっかりと学ばせていくことが大切だと考えます。



学校生活の中で子供たちは、様々なトラブルを起こしたり直面したりします。子供たちの周りにある問題を未然に防止したり、問題が起こった際に丁寧に指導したり、意味をよく考えさせたりしていくことで、「戦争の種」「戦争の芽」をできるだけ早期に摘み、人としての心の豊かさや人としてありたい姿について一緒に考えていく、このことが大切だと思います。

しかし、子供たちにとってはトラブルでさえ大切な学習の一つです。トラブルが起こった時に、自分の気持ちや行動を思い返しながらか冷静に自分の心と対峙し、「自分で考え」、「自分の気持ちを伝え」、「相手の気持ちを想像し」、対話によって解決できるよう私たち教師は支援します。安易に誰かのせいにするのではなく、自分も周りの人も幸せにしていく方法を探ることが大切です。友達や家族を平和にしていくことが、世界を平和にする第一歩となります。子供たちの心が新鮮で素直なうちに、平和への思いを広げていきたいと思っています。相手をよく理解し、おかしいことややってはいけないことを、心の目でみて判断し、平和について本気で考えることができる子供たちを育てていきましょう。

大人や親として、戦争を知らない子供たちに戦争をどう伝えていくか、改めて考えなくてはなりません。戦後はまだ続いています。今の時代が「戦前」と呼ばれることがないよう、心から願うばかりです。



ぜひ、この機会に御家庭でも平和の大切さやありがたさを話題とし、目の前の子供たちのために「小さな平和」をつくる視点を持たせていただければと考えています。よろしくお願いいたします。